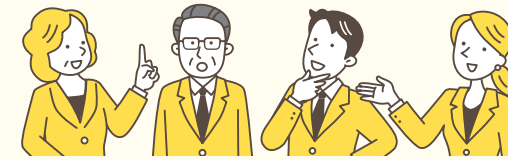


生駒南小学校・生駒南中学校

整備事業基本構想

～伝統を継承し、これからの学びを実現する学校づくり～



全国的な少子化の傾向と同様に、生駒市でも少子化が進行しています。児童生徒数の減少が見込まれる中でも、子どもたちが「学び合い、高まり合える」環境を保障するため、生駒市では平成30年4月に生駒市学校教育のあり方検討委員会を設置し、答申を受けました。

その答申を受け、生駒南中学校区の学校規模適正化について、多くの関係者から意見を頂戴しながら検討を行ってきました。

それらの経緯を整理し、生駒南小学校及び生駒南中学校の教育環境を維持・充実させ、未来に向けた新しい学校を整備するための方向性を示すものとして、基本構想をまとめました。



生駒市教育委員会

これまで

生駒南小学校の歴史

- 明治 7年 5月 有里竹林寺に開明舎として創立
- 明治 22年 4月 南生駒村立南生駒村尋常小学校に改称
- 大正 10年 2月 現在地に移転改築
- 昭和 22年 3月 南生駒村立南生駒小学校に改称
- 昭和 30年 3月 生駒町立生駒南小学校に改称
- 昭和 46年 11月 生駒市立生駒南小学校に改称
- 昭和 49年 11月 創立100周年記念式典挙行政
- 昭和 62年 4月 体育館落成、運動場拡張工事
- 昭和 62年 6月 プール完成
- 平成 26年 11月 創立140周年記念式典



大正時代の校舎



昭和54年頃の学校の全景



平成6年の学校の全景(120周年)

生駒南中学校の歴史

- 昭和 22年 4月 南生駒村立南生駒中学校として開校(南生駒小学校に併設)
- 昭和 28年 4月 萩原350番地に校舎竣工
- 昭和 30年 3月 生駒町立生駒南中学校に改称
- 昭和 46年 11月 生駒市立生駒南中学校に改称
- 昭和 48年 1月 新体育館竣工
- 昭和 55年 3月 東館竣工
- 昭和 60年 8月 プール竣工
- 平成 20年 9月 耐震補強工事
- 平成 28年 11月 創立70周年記念式典



昭和29年の校舎



昭和46年頃の校舎



平成2年頃の学校の全景

現状

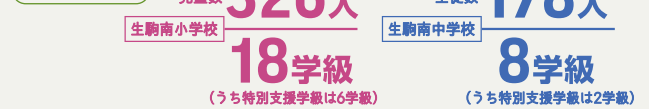
児童生徒数

今後の児童生徒数は、生駒南小学校は減少傾向ですが、生駒南中学校は増加傾向を見込んでいます。

令和5年(5月1日現在)



令和9年(見込み)



施設

各校とも老朽化が進行しており、校舎等の更新が必要な時期を迎えています。

生駒南小学校



現状の生駒南小学校

最も古い校舎で築50年を超え、最も新しい校舎でも35年を超えています。

生駒南中学校



現状の生駒南中学校

最も古い校舎で築50年を超え、最も新しい校舎でも40年を超えています。

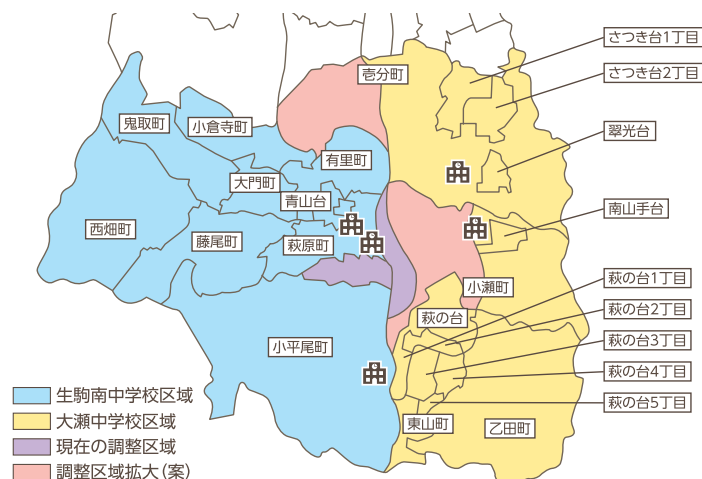
これから

設置方針・場所

校舎は、現在の生駒南小学校及び生駒南中学校の敷地内で、施設一体型として新たに建設を行い、現校舎は解体します。屋内運動場も同様に、新たに建築します。プールに関しては、近年の全国的な情勢を見極めつつ、設置を行う場合は、新築します。



通学区域



整備スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
境界確定・測量	→			
基本構想	→			
	→ 基本計画・基本設計・実施設計・工事			

お問い合わせ

生駒市教育委員会事務局
教育総務課
TEL: 0743-74-1111



新しい学校づくりの方向性と視点

望ましい学校規模とは!?

生駒市の望ましい学校規模は、「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」で下表のように示されています。

	小規模	望ましい規模	大規模
小学校	11学級以下	12学級～24学級(各学年2～4学級)	25学級以上
中学校	8学級以下	9学級～18学級(各学年3～6学級)(19～21学級も許容範囲とする)	22学級以上

- 生駒南小学校**
今後も各学年2学級以上と見込まれています。 **望ましい**
- 生駒南中学校**
最も多い年度で全6学級と見込まれています。 **小規模**

学校づくりの方向性

生駒南小学校及び生駒南中学校の整備に当たっては、令和5年生駒市教育委員会第1回定例会において議決された「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」で定められた教育・施設・校区の次の3点に沿って整備を行っています。

教育

- 第2次生駒市教育大綱に掲げる基本方針2「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」を基に、子どもにとって将来必要とされる資質・能力とは何か、学校と地域がどのような連携を進めていくのかなど、第3次生駒市教育大綱の策定も見据えて、目指す教育・未来の学校づくりについて学校、保護者、地域がビジョンを共有しながら進めていく。
- 生駒市が推進する小中一貫教育のメリットを最大限に生かし、子どもたちにとって最適な教育機会を提供できるよう生駒南小学校、生駒南中学校の教育の方向性に関する検討委員会を設置し、広く様々な意見を取り入れながら検討していく。
- 小学校から中学校への9年間を見通した6-3制をベースとする小中一貫教育を進める。

施設

- 現在の生駒南小学校、生駒南中学校の敷地内において、子どもの主体的な学びの実現をはじめ、子どもの成長・発達にとって最適な教育環境を提供し、生駒市教育大綱の理念を具現化するために、本市が進めている小中一貫教育を一層推進できる施設一体型*の学校施設を検討する。
- 施設の建替に当たっては、学校教育と社会教育が融合した、多様性のある学びが実現できる環境を確保できる施設となるよう検討する。
- 地域の方々や市民が学校施設を有効に活用し、活気のあるまちづくりに寄与する施設を整備していく。

*小・中学校が同一校舎又は同一敷地内に設置されている形態のこと

校区

小瀬町、壱分西等隣接する地域の子どもたちが、生駒南中学校に通学することができるよう早期に調整区域を設定する。

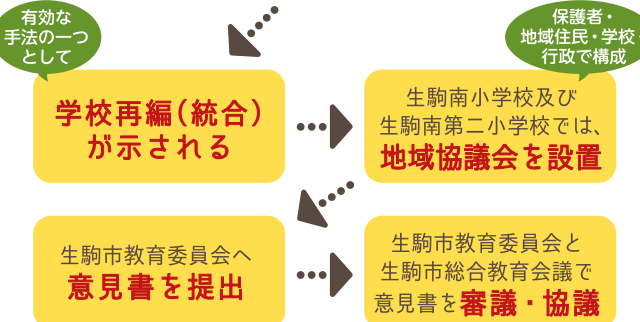
新しい学校ができるまで

児童生徒数の減少が見込まれる中、子どもたちが「学び合い、高まり合える」環境を整えるため、生駒市では、平成30年4月から様々な検討会や協議を重ね、令和6年2月に生駒南小学校・生駒南中学校整備事業基本構想を策定しました。

平成30年 生駒市学校教育のあり方検討委員会設置

↓ 答申

令和2年 通学区域の見直しや小中一貫教育の推進など生駒南中学校区の、**学校規模適正化の検討を言及**



令和3年11月 「生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性」決定
生駒南小学校、生駒南中学校の**改修のあり方と生駒南小学校の規模の適正化及び校区見直しの検討**

令和4年度 「生駒南小・中学校の今後を考える会議」開催

令和5年1月 生駒市教育委員会第1回定例会
「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」議決

令和5年度 「これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議」開催

基本構想策定

令和6年度～ 基本計画

基本設計・実施設計

工事

開校

基本構想の策定に向けて

令和4年度に「生駒市立生駒南小・中学校の今後の方向性について」が決定されたことを受けて、令和5年度には「これからの学びを実現する生駒南小・中学校の施設整備を考える会議」を3回開催しました。ディスカッションを通して、これからの学校づくりに大切な考え方や気づきが生みられました。

第1回 小中一貫校について知る

会議の座長を務める横山俊祐大阪市立大学名誉教授から、小中一貫校が始まったきっかけやそれによる効果の解説がありました。その後に参加者が小中一貫校についてそれぞれ感じていることをディスカッションしました。

1回目の総まとめ

一貫校はあくまで手段であることを念頭に置き、どう活かしていくかを考えることが重要。

第2回 学校はどんな場所かを考える

参加者は「思い出を共有編」と「未来の学びを共有編」の2つのテーマのディスカッションを進める中で、これからの未来を担う子どもたちが多感な時期を過ごす学校施設のあり方を考えました。

1 思い出を共有編

心に残っている思い出から学校を振り返る

- 友人と過ごした何気ない日々のこと
- 新築当初の新しい校舎やプレハブ校舎で学んだこと
- 修学旅行や運動会、文化祭や駅伝などの行事のこと

2 未来の学びを共有編

これからの時代に必要なスキルは何?

- 昔はなかったけど今あるもの
1人1台のパソコン/カラフルなランドセル/洋式トイレ・多目的トイレ など
- 20年後に必要なと思われるスキル
他者との助け合い、思いやる心/国際化に対応できる語学力/自分で生きる力 など
- 新入社員に持ってほしいスキル
自分の考えを言語化する力/相手を理解する力/コミュニケーション力 など

2回目の総まとめ

思い出の中には今の学校にないものもあり、学校も時代に合わせて変わっている。新しい学校づくりには、これまでの学校の先入観に縛られない幅広い視野を持つことが必要。また、学校は勉強するだけの場ではなく、人生の土台を作る場所。しかし、学校だけでできることには限りがあるので、家庭や地域などの様々な人が関わり、地域全体で子どもを育てることが学校づくりの基本になる。

第3回 新しい学校はどんな場所になって欲しいですか

思い出を通して見直した学校とこれから身に付けてもらいたいスキルから、新しい学校に期待する教育内容や設備について意見を出し合いました。

出された意見

- 他学年や多世代との交流
- ユニバーサルデザインを多く取り入れる
- 地域行事にも活用できる施設
- 自分が興味のあることを子どもたちが先生となって授業をする
- 時代の変化に対応できる教室

3回目の総まとめ

一貫校らしい多様な交流や人間関係、郷土学習、地域の願いとして「心」を育てる教育など、地域全体で地域独自の学校づくりに向かう意識が示された。

ハード

どんなカタチの学校にするか

ソフト

どのような学びができるか
地域と学校がどうつながるか

両輪で考えることが大切

新しい学校を作るための視点

1 多様性・個性を尊重し、相手を思いやることのできる心を育む学校

～ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが心地よく過ごせる施設の中で、自然と思いやりの心が育つ学校に～

新しい学校づくりの視点会議での議論やワークショップの意見を踏まえ、地域で考えた新しい学校を作るための視点を次のとおり定め、新しい学校施設の整備や教育活動を行っています。

2 地域や他学年と交流しやすく、子どもたちが多様な人たちと交わり、豊かな人間関係を築くことができる学校

～幅広い年齢層の子どもたちが成長できるとともに、地域の人が気軽に利用できる空間がある学校に～

3 子どもたちが自ら学びたいと感じ、主体的に物事に取り組むことができる学校

～子どもたちの主体的な学びを促す学習環境や教育活動が充実した学校に～

4 時代の変化にも柔軟に対応できる、これまでの学校にはない新しい視点を取り入れた学校

～どのような時代にも対応できる自由度の高い空間を有する学校に～

5 いつまでも心に残り続けるかけがえのない経験ができる学校

～仲間と共に多様な体験を重ねることができる学校に～

この視点をベースに、令和6年度から基本計画を進めています。